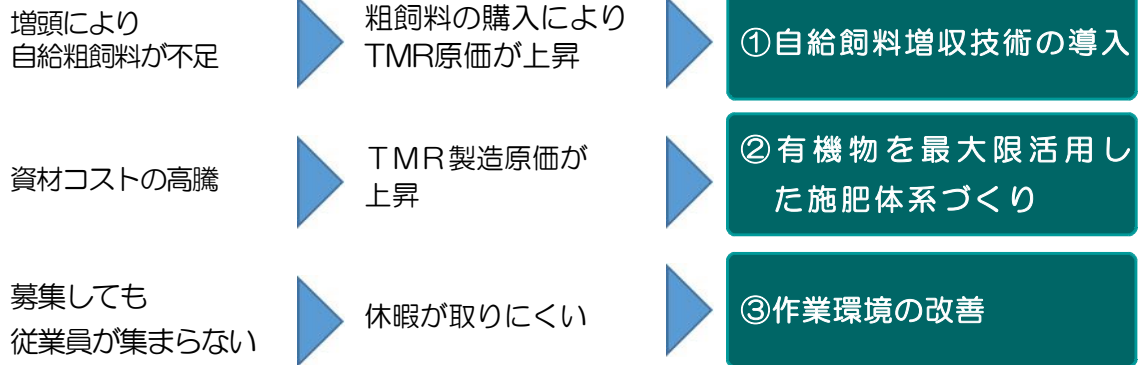


TMRセンターの課題解決による地域生産力の維持・向上

(中標津町開陽地域)

1 課題の背景 *****

○対象：TMRセンター構成員15戸



2 活動の経過 *****

①自給粗飼料増収技術の導入

施肥実証

- ・即効性の窒素成分混合によりイネ科牧草の分けつを促進



- ・晩秋に集中していたスラリー散布の一部を早春へ移行

二毛作の実証

- ・飼料用とうもろこし収穫直後に飼料用ライムギの越冬栽培を実証



収穫直前のライムギ

低収箇所改善

- ・作業機踏圧箇所の生育を検証
- ・草地更新経過年数別の影響調査



作業別の踏圧確認



解決事例の調査

②有機物を最大限活用した施肥体系づくり

肥料成分を分析

- ・スラリーの簡易分析を実施



早春の散布作業調査

- ・面積当たりの散布量と作業能率を調査



サイレージ原料草の洗浄確認

- ・早春のスラリー散布ガイドライン活用でサイレージ品質を維持できるか検証



草地更新経過年数別の草地管理を提案



農場毎の年間スラリー散布計画を提案



施肥設計の実施と肥料銘柄変更提案

- ・土壌分析、スラリー分析、散布効率を考慮



③作業環境の改善

飼料作物栽培工程表の活用

- 作業委託先と作業効率改善の協議



TMR 製造部門の作業

マニュアル作成支援

担当：タイヤシヨベル

1 パンカーのサイレージを調ず

・作業場所：№①-② 技術的なポイント
・動画：№C
・ポイント：サイレージは空気と触れると傷みやすい
・使う分だけ調ず、無駄は発生に平らにする

作業内容

- サイレージの使用量を確認する
- パンカーのサイレージを確認する
- カビや腐れを確認し、①少量ならフォークで、②深さ・幅が50cm以上ならバケットで取り除く
- 1回の取除で使用する分のサイレージを、タイヤシヨベルのバケットで調ず（動画要参照）
- 調じたサイレージが均一になるよう混ぜながら山を作る

2 調じかすをミキサーに投入する

・作業場所：№②
・動画：№C
・ポイント：調じかすの量は1日分の糞油かすを調ずる（調査日：7月×450kg）
・サイレージのバケットですく
・ミキサー到着後、投入する
・投入量はミキサー車の目盛りを確認する
・次回使用する分をバケットですく、倉庫前に待機する

倉庫内図面

従業員への個別面談を提案



3 活動の成果 *****

①自給粗飼料が増収、低収箇所の改善策が決定

収量向上策を具体化

- 晩秋に散布していたスラリーの一部を早春に分散することで、乾燥していても**収量が安定**
- 即効性の窒素肥料の活用でイネ科牧草の分けつが促進され**茎数が増加**し増収
- 越冬ライムギは6月中旬で4,000kg/10aの収量。は種晩限は10月中旬と判明

実態調査により現地の問題と対策が明確化

- 踏圧の影響が大きいのは**スラリー散布作業**
- 有効な解決策は**エアレーションの実施**。R5年より開始予定



スラリー散布

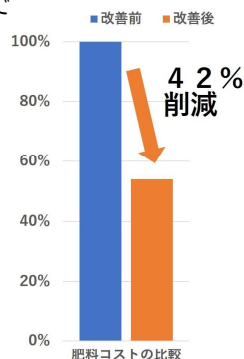


草地のエアレーション

②有機物を最大限活用して肥料コスト削減

収量向上策を具体化

- 施肥体系の見直しで**肥料費42%削減**
- 草地更新後4年目以降はスラリーを最大量散布
- 早春のスラリー散布ガイドラインを活用することで、**牧草へのスラリー付着量がほぼなし**



スラリー年間利用計画素案完成

スラリーを見える化

③人が定着する兆し

離職者ゼロの実現

- 作業工程の見直しに従業員の意見を反映
- 作業工程の見える化により委託業者と穏やかな雰囲気での工程変更を協議できるように変化
- 牧草収穫作業の遅れる割合が減少

4 今後の活動 *****

地域全体のスラリー年間利用計画を作成

- 無理のない保管、運搬、散布管理体制の確立

構成員農場の作業効率改善

- 搾乳ロボット牛舎の運営モデルづくり